

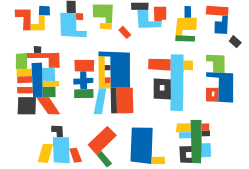
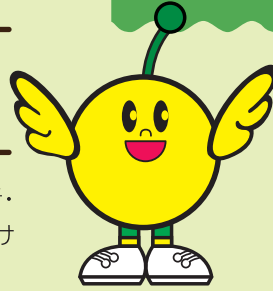
ふくしまの 今が分かる 新聞

故郷とあなたをつなぐ
情報誌

発行：福島県庁 避難者支援課
☎024-523-4250

vol.86
令和3年7月15日(木)発行

「ふくしまの今が分かる新聞」では、県内外に避難されている皆さまや被災者・避難者支援に携わる多くの方々へ、避難者支援の取組や福島の復興に向けた動きなど「ふくしまの今」が分かる情報をお届けします。



特集

水素社会の実現に向けて

- 避難先自治体でのワクチン接種について
- 原子力被災事業者事業再開等支援補助金について
- 県外に避難している高校生の県内企業への就職支援

考えてみよう。
ふくしま
のこと。

五色沼 (北塩原村)

五色沼とはひとつの沼ではなく、大小さまざまな沼や湖で構成される湖沼群の総称です。その名のとおり、青、緑、赤など、湖沼ごとに変化に富んだ色合いを見せてくれます。この絶妙な発色は、水に含まれる鉱物、生物相、天候、季節、時間帯などによって生み出されると言われています。盛夏を迎えた現地では、山肌の荒々しい裏磐梯の姿を、水辺の色とりどりの風景が鮮やかに彩っていました。

特集

水素社会の実現に向けて

カーボンニュートラル(脱炭素社会)の実現が世界的な課題となる中、福島県では「水素」に着目し、チャレンジを進めています。

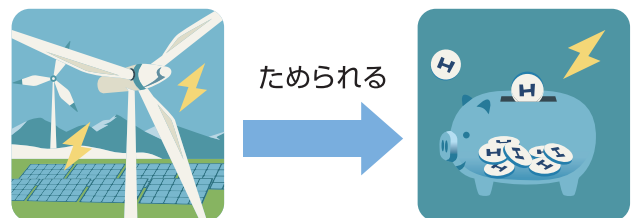
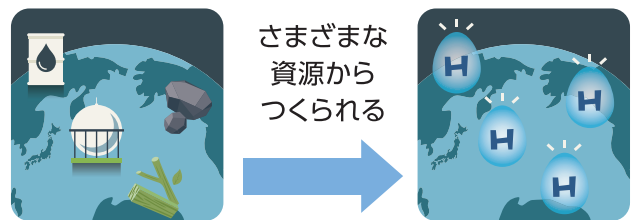
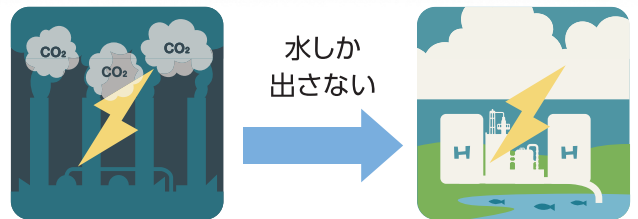
新たなエネルギーによる、未来のまちづくりに向けた取組を紹介します。

水素ってなんだろう

水素は、地球上で一番軽い気体です。私たちの周囲の空気と比べると、14分の1の軽さなのです。また、無色・無臭で、味もしません。水素は気体で存在しますが、 -253°C まで冷やすと、液体になります。さらに、さまざまな資源に含まれているため、地球上にたくさんあります。

水素という新しいエネルギー

水素エネルギーは、大きく3つの特徴を持っています。1つ目は、エネルギーをつかう際に二酸化炭素ではなく水を出すこと。2つ目は、地球上のさまざまな資源からつくることができること。3つ目は、エネルギーを水素に変えてためることができること。この3つが、今までのエネルギー問題の解決につながる重要なポイントです。



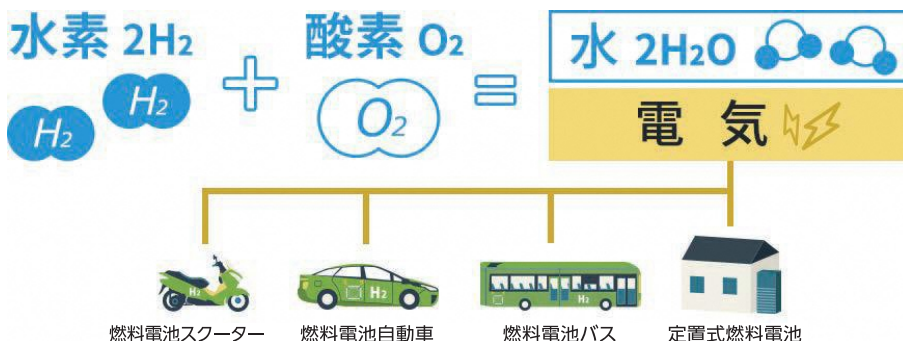
水素からエネルギーをつくる

燃料電池で水素と空気中の酸素を化学反応させると、電気・熱・水が発生します。

この電気と熱はエネルギーとして利用できます。

水素は、定置式燃料電池により、施設に電気と熱を供給するためのエネルギーとしてつかわれているほか、燃料電池自動車をはじめとした乗り物を動かすためのエネルギーとしてもつかわれています。

将来的には、水素エネルギーが暮らしのさまざまな場面で安心・安全に活用される社会の実現を目指しています。

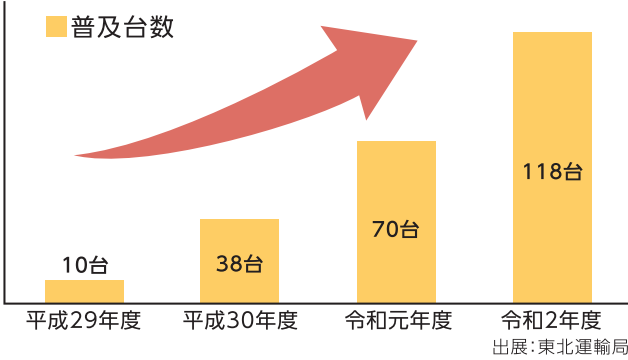


県内で水素利活用が広がっています！

令和3年5月末時点で県内に139台の燃料電池自動車が導入されており、東北では最も普及が進んでいます(東北全体で211台)。

いわき市では、東北初となる燃料電池バスの路線運行が令和2年4月から始まっています。

燃料電池自動車



県庁でも公用車として導入しています！



燃料電池バス

いわき駅～鹿島～小名浜間での運行が行われています。



出典:新常磐交通(株)

福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)

浪江町には、水素の研究施設が整備されました。この施設では、再生可能エネルギー由来の電力を水素に変換して貯蔵・利用する技術など、効率良く低コストな水素の製造技術の確立を目指して、日々研究が行われています。

世界最大級の
再エネ由来
水素製造拠点！

1日に燃料電池自動車
約560台分の
水素が製造可能



出典:NEDO

福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)

令和2年3月7日に
開所

水素活用に向けた
実証実験が
行われています



出典:NEDO

FH2Rで作られた水素は、浪江町の子どもたちによる絵が描かれたトレーラーで運ばれ、道の駅なみえやJヴィレッジ、あづま総合運動公園の定置式燃料電池に供給されています！

未来のまちづくりに向けて トヨタとの連携

福島県は6月、トヨタ自動車株式会社などと水素を活用した新たな未来のまちづくりに向けた検討を開始しました。

今後、燃料電池のトラックやキッチンカー、ドクターカーの運用などを通じて、世界に先駆けた水素社会の実現、カーボンニュートラルの実現に向けたチャレンジを進めていきます。



出典:トヨタ自動車株式会社

避難されている皆さまの避難先自治体でのワクチン接種について

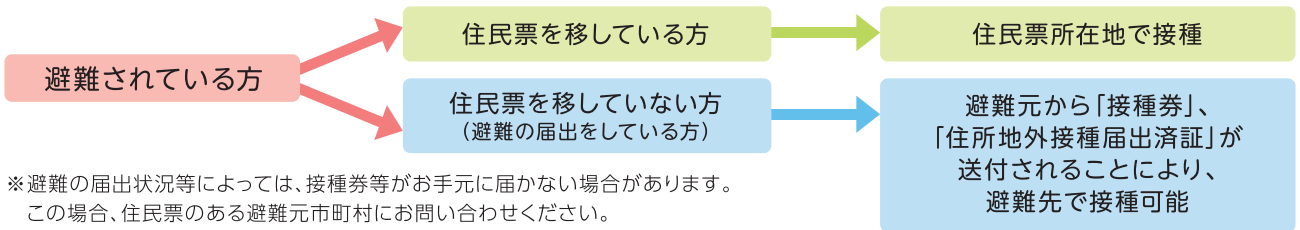
令和3年6月1日より、ワクチン接種の対象者が拡充され、12歳から15歳となる方も対象となりましたので、改めて避難先におけるワクチン接種について掲載します。

新型コロナウイルスワクチンの接種は、住民票がある市町村で受けることが原則とされています。

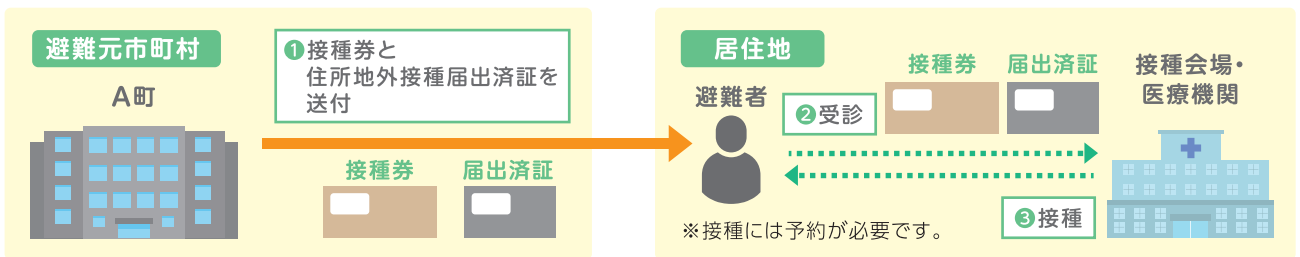
一方、東日本大震災により避難されている皆さまは、住民票を移していない場合でも、特別な手続を行うことなく、避難先市区町村で新型コロナウイルスのワクチン接種を受けることが可能です（避難の届出をしている方に限ります）。

住民票のある避難元市町村から「接種券」と「住所地外接種届出済証」が送付されますので、避難先の住民と同様に接種予約をし、この両方を接種会場に持参いただければ、接種が可能となります。

なお、予約手続は、避難先市区町村によって異なりますので、避難先市区町村に確認いただくか、広報等で確認されるようお願いいたします。



※避難の届出状況等によっては、接種券等がお手元に届かない場合があります。この場合、住民票のある避難元市町村にお問い合わせください。



※避難先市区町村以外の自治体（避難元自治体を除く）で接種を希望する場合は、希望する自治体に「住所地外接種届出済証」の申請手続をしていただく必要があります。

※15歳以下の方が接種を受ける際は、原則として保護者の同行及び予診票に保護者の署名が必要になります。

※令和3年6月21日より、企業や大学等における職域接種が開始されました。職域接種の場合は、接種券がまだ届いていない方も接種を受けることができます。

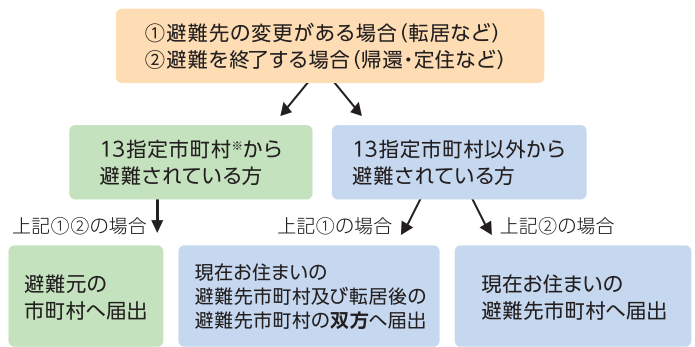
※接種について不明な点、心配な点がございましたら、避難元市町村へお問い合わせください。

避難先情報の届出のお願い

避難先の変更（転居をする場合など）がありましたら、右の市町村宛てにご連絡いただくようお願いいたします。福島県や避難元市町村からのお知らせを着実に届けるようになるほか、下記の13指定市町村から避難されている方は、避難先においても一定の行政サービスを受けることができます。

※いわき市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、川内村、葛尾村、飯舘村

問 福島県避難者支援課 ☎024-523-4250



原子力被災事業者事業再開等支援補助金における12市町村外での再開等支援の終了について

震災時に福島県原子力被災12市町村内で事業を行っていた中小事業者が、店舗や事務所整備など、事業を再開する時に必要な経費の一部を補助する「福島県原子力被災事業者事業再開等支援補助金」の「12市町村外」における事業再開等支援は、令和4年3月以降段階的に終了します。12市町村外での事業再開等を計画している方は、終了時期にご注意ください。

対象者 原子力災害発生時に12市町村内で事業を行っていた中小事業者 **公募期間** 8月16日(月)まで(当日消印有効)

対象事業 ① 12市町村内において事業再開や新規投資、販路開拓等の事業展開投資を行う場合
② 原子力災害後、休業していた者、または休業していたとみなせる者が12市町村外において事業再開等を行う場合
補助金交付上限額及び補助率：事業を再開する場所によって、補助上限額及び補助率が異なります。詳しくは本県HPをご覧ください。

問 福島県経営金融課 ☎024-572-7019 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/32011b/>





進路アドバイザーによる 県外に避難している高校生の県内企業への就職支援

福島県出身者で、現在県外に避難している高校生のうち、高校卒業を機に福島県内の企業へ就職を希望する生徒に対して、県内の各高校に配置した進路アドバイザーが、就職を希望する地区の企業求人情報を提供します。



問 [事業に関する問い合わせ] 福島県教育庁高校教育課 ☎024-521-7773

就職支援の 流れ

求人情報の提供を希望する生徒は、現在通っている高校の進路指導担当(またはクラス担任)の先生を通して、相談窓口にお問い合わせください。その際、「現在通学している学校名」「学校の連絡先」「就職を希望する地区」「希望する業種や職種」「帰還予定時期」などをご連絡ください。各地区担当の進路アドバイザーが、希望に即した企業の求人情報を送付します。

問 [相談窓口] (株)福島人材派遣センター 進路アドバイザー係 ☎024-521-5111

正規雇用を目指す実習生を募集しています

福島県では、避難等により長期間非就労の状態にあった方の安定的な雇用を支援するため、企業における実習事業(ふくしま人材確保支援事業)を行っています。

実習の 対象者

東日本大震災発生当時、
①福島県内に所在する事業所に勤務していた方 ②福島県内に居住していた方
上記①、②のいずれかに該当し、かつ過去1年間に
ふくしま人材確保支援事業以外の仕事に就いていない方

実習の 内容

雇用開始日から令和4年3月31日までの間、6か月間を目
安に、就労に必要な基礎研修及び受入企業での職場実習
を行いながら、資格取得等就労に必要な知識・技能を習
得することができます。

事前の研修と
職場実習で能力アップ!
多くの実習生が
正規雇用を
実現しています!



問 受託事業者(株)ワールドネクスト ☎0120-03-0652
(事業担当課:福島県雇用労政課 ☎024-521-7290)

ふくしま人材確保支援事業 検索

就職・転職活動にお困りではありませんか?

避難先での就職、帰還に伴う就職、お困りではありませんか?効率良い就職活動のご相談に乗らせていただきます。お子さま等のご家族の方のご相談もOK!まずはお気軽にご相談ください!



対象

震災で避難されている方、福島被災12市町村*で働きたい方
*南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、川内村、川俣町、飯舘村、田村市、葛尾村

引越代等をサポート

就職・転職にあたり、転居を伴う方には転居支援制度があります!
※制度の利用には条件がございます。詳しくはご相談ください。

問 令和3年度 経済産業省委託事業 福島求人支援チーム
協力:経済産業省、公益社団法人 福島相双復興推進機構
☎024-572-5530 ✉info-fukushima@pasona.co.jp 受付:株式会社パソナ





「県民健康調査」小児健康診査を実施しています

対象の方へは受診案内をお送りしています。県内での受診については水色、県外での受診については桃色の封筒でご案内していますので、書類をご確認のうえ、お早目の受診をお願いします。

対象者

平成18年4月2日から令和3年4月1日までに生まれた方のうち、対象地域※に

- 平成23年3月11日から平成24年4月1日までに住民登録をしていた方
- 令和3年4月1日現在、住民登録している方

※対象地域：平成23年時に避難区域等に指定された市町村（田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村、伊達市の一部）

受診期間

県内：令和3年7月～12月31日 県外：令和3年8月～令和4年1月15日

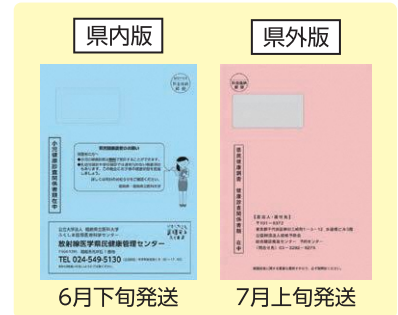
受診できる医療機関

「小児健康診査医療機関一覧」（受診案内に同封）からお選びください。

健診費用

無料

問 福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター ☎024-549-5130（平日午前9時～午後5時）

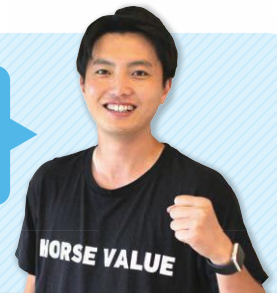


VOICE

帰還した人、起業した人、
移住してきた人の声をご紹介します。

Vol.20

神瑛一郎さん
（南相馬市小高区在住）



馬文化が根付く土地で、馬に触れる機会を増やしたい。

2019年に南相馬市小高区へ移住し、地域おこし協力隊として活動。新たなまちづくりに取り組むNCL南相馬に参加し、2020年には馬の社会価値を高めたり文化を広めたりするための一般社団法人HorseValueを立ち上げました。現在は馬に乗って小高の街をめぐる「小高うまさんぽ」をはじめ、海岸や森での乗馬トレッキングなど観光コンテンツの提供を中心に活動しています。

もともと私は学生時代から馬術に取り組み、国体や国際大会でも競技してきたんです。その中で「馬術や馬に関する文化の向上と拡大を図りたい」と思い始め、競技ではなく事業を通じて馬に関わろうと決意。馬を活用した新事業が立ち上げやすい環境だったことから、南相馬市小高区に移住してきました。ここは1,000年以上にわたって相馬野馬追が行われ、馬に関わる文化が根付く土地。加えて東日本大震災後は新たな産業を受け入れ、支援する態勢も整えられていました。文化的な面も制度的な面も適していたことが、移住と起業の決め手になったんです。

移住して気付いたのは、一般市民レベルではまだまだ馬と触れ合う機会が少ないのではないかと。伝統の相馬野馬追をリスペクトしながらも、私としては広く皆さんに馬と触れ合う文化を浸透させたいと考えています。今後も少しずつ街の風景を変えていければと思いますね。

神さんが提供している
乗馬トレッキング

馬仲間のワタリン君は
野馬追にも参加予定



私の10年VOICE

85号の読者アンケートで、この10年を振り返るメッセージを募集しました。寄せられた声の一部をご紹介します。

福島の良いところをすごく感じた10年でした。離れてみてわかったことがたくさんあり、福島への帰還は、ゆっくりあせらずしようと考えています。（宮城県 女性）

町外へ避難し、転々と移動した中で、地域の方々に親切にしてもらい、はげましの声をいただいたり、人の優しさにたくさんふれて来ました。2年前に町へ戻って来て、本格的に仕事勤めを再開しました。今後は、この町に住み続け、今後の町の成長を見守っていきたいと思っています。（大熊町 女性）



震災10年のふくしまの動き… **バックナンバーでチェック!**

福島 今が分かる新聞

検索

